

岐阜支部だより

- 1 — ◎巻頭言
- 2 — ◎支部研究会報告
- 3 — ◎教育相談Q&A
- 4 — ◎全国大会に参加して



巻頭言

研修で教えられたこと

日本学校教育相談学会岐阜県支部理事

下野 正代

「教育相談は、世に隠れた宝を生み出す仕事です。10年頑張ってみなさい。」と恩師に言われてから、もう30年が過ぎました。教育相談の経験が長くなると「教育相談のベテラン」と言われたりします。しかし、実際の教育相談においては、出会う人ごとに初心であり、同一人物であっても毎日が緊張と不安の連続ではないでしょうか。しっかり聴いてもらえたと思って生徒や保護者の方が相談室を出て行かれたという自信はなかなか持てないように思います。逆に（今日ほうまくいった）とこちらが感じるときは、相手は中途半端な気持ちで帰られているのではないかと思います。

この夏、岐阜県支部が担当して「中部ブロック研修会」が開催されました。多くの熱心な参加者の方々とスタッフの皆さんのおかげで、成功裡に終わることができました。田上不二夫先生とゆっくりとお話をする機会があり、カウンセリングを専門にされる先生の穏やかで温かな人間性に惹かれました。これまでも参加した研修会でお聞きした講師のお話随分救われることができました。

教育相談を始めた頃は、時間が来ても相談を終えることができませんでした。「終わらしましょう。」がなかなか言えず、相談室の外は薄暗くなっているのに生徒と二人向かい合っていました。聴いてほしかったことを十分に聴いてもらえなかったと感じている生徒と、しっかり聴けなかったという思いの二人でした。どうしたら時間通りに終える

ことができるのかという疑問に、「会議があるので腰をあげればいいですよ。」と教えてくださった講師もみえましたが、河合隼雄先生の「これ以上は、私もえらいのでと本当の自分の思いを言えればいいですよ。」との答えがぴったりとききました。

また、教育相談では秘密にするから相手は何でも話してくれると思いついていた頃、「何でも話してください。秘密にしますから。」と肩に力を入れて言う私に、生徒は益々ところを閉ざしてしまいました。どうしたらもっと話をしてくれるようになるのかという問いかけに、『何があっても私はあなたを見捨てない。』『私はあなたの良さを知っている。』という思いで会いなさい。」と教えてくださった講師がみえました。それからは、その思いを胸に、向かい合うようになりました。そして、更に箱庭療法との出会いで、「母親のような見守りと限られた空間の中で自由に表現する」という考えに出合って、いつの間にか相手の周り2メートルぐらいを温かな空間で包むような思いで向かえるようになったとき、「どうぞ。」の一言で話が始まり、「ではこれで。」で終わるようになった気がします。

これからも学会員の方々と共に研修や研究に励んで、新たな境地と喜びに出会っていききたいと思います。

（平成21年9月28日）



◇支部研究会報告◇

定期総会・第1回研究会報告

開催日：平成21年6月20日（土）

会場：岐阜県岐阜市「岐阜女子大学」

1. <定期総会>

今年度の岐阜県支部定期総会は、6月20日（土）に、岐阜女子大学で行われました。

総会では支部役員、20年度活動報告、会計報告、21年度活動計画、予算案などが審議されました。（総会資料につきましては、支部会員全員に送付いたしました。届いてみえない会員の方がみえましたら事務局までご連絡下さい）。

2. <記念講演>

「教育相談活動における課題」

岐阜大学総合情報メディアセンター

准教授 伊藤 宗親 先生

総会後の記念講演では、岐阜大学総合情報メディアセンターの伊藤 宗親先生に「教育相談活動における課題」という



内容でお話をいただきました。実際の学校現場の様子を見ながら感じてみえることについて、「最近の子どもたちを見ていて、耐性が自然に身に付く環境がどんどんなくなっている。」「教師の関わり方の中に、まだまだ疑問を感じる場面もある。」など、学校の教育相談態勢や教師の具体的な関わり方について、学ぶことができました。

第2回中部ブロック研修会・第2回研究会報告

開催日：平成21年8月22日（土）

会場：岐阜県岐阜市「県民ふれあい会館」

夏の研修会は、8月22日（土）に、ふれあい会館（岐阜市）にて、第2回中部ブロック研修会とかねて行われました。

「対人関係ゲームを学ぼう」

東京福祉大学教授（筑波大学名誉教授）

田上 不二夫 先生

「対人関係ゲームを学ぼう」と題し、東京福祉

大学教授（筑波大学名誉教授）の田上不二夫先生に、講話とワーク形式で御指導をいただきました。中部ブロック研修会



とかねていたこともあり、研究会には、県内及び県外（愛知、静岡、石川、新潟、奈良、東京）から学校の教員、相談機関の相談員、大学や大学院の学生など多数の参加がありました。

講話の中では対人関係ゲームの特徴やゲームの種類と性質、活動のプログラムの作り方などについて、「対人関係ゲームは問題解決型の介入をし、現実の人間関係の改善を目標とする。」「交流するゲーム、心をかよわすゲーム、協力するゲーム、折り合うゲームなどの種類がある。」「不登校児童生徒の学級復帰後の人間関係づくりのように、不安や緊張が強い場合は、①不安の逆制止と交流、②人に心を掛け、人と楽しむ、③人に認められる、という流れでプログラムを構成していくと良い。」などのお話をいただきました。

ワークでは、実際に「ひたすらジャンケン（交流するゲーム）」、「新聞紙タワー（折り合うゲーム）」、「みんなでコラージュ



（折り合うゲーム）」などを体験した。体験しながら運動量の多少や自由度、流れについて解説していただき、理解を深めることができました。



参加者からは、「ワークを楽しむ中で対人関係づくりのノウハウを学ぶことができた。」「ゲーム感覚で楽しんでいたはずが、知らないうちに自分自身をじっくりと見つめ直す時間になっていた。」「人とかかわりを楽しんでいない子が多くなってきている現状の中で、人間関係づくりの専門家としてすべきことが明確になってきた。」「すぐにも使えそうなワークばかりだったので、夏季休業が終わったらさっそく学級でやってみたい。」などの感想が聞かれました。

（文責：広報委員 郷田 賢）

◇教育相談Q&A◇

このコーナーでは、最近の教育現場で悩んでみえることについて、学校カウンセラーの先生にQ&A形式でお話いただくコーナーです。

Q:問題を抱えたA男について母親の理解と協力を得たいのですが……。最近では連絡してもなかなか分かってもらえず、居留守を使われてしまうことが度々です。A男は大変落ち着きがなく指示が入りにくく、友達とのトラブルもあり心配なことが多い毎日です。専門機関の紹介もしたいのですが…

A: 先生の「心配なことが多い毎日」という一言に、先生のこの子に対する温かいまなざしを感じます。親との関係がギクシャクしないためには、こうした姿勢がとても大切です。親は家庭では自分の子どもだけを見ていて、なかなか集団の中での姿を見る機会がないために、先生の言われることが分からないこともあります。でも、親もどこかでこの子の育てづらさは感じてみえると思います。親も不安いっぱいのはずです。親の苦労をねぎらいながら、その不安に寄り添うようにお伝えし、「この子がこれからも苦労しないようにするにはどのような方法が考えられるかご一緒に考えていきましょう」と、共に未来に向かって手を携えて進む先生の姿が、きっと親の安心を得ることにつながると思います。親は学校から連絡が入ると、自分が責められるのではないかという不安と、一方では「自分の育て方が悪かった」という自責の念に動きがとれなくなってしまうこともあります。多分、先生からの電話を拒否されるのはそうした気持ちからだと思います。自分の気持ちにとらわれて子どもの姿を受け入れられない、あるいはわかっているけど認めたくないのかもしれませんが。そうした揺れる親の気持ちを受容しながら、「私も勉強したいのです。この子がもっと苦労なくて生活できる方法が知りたいのでご一緒に専門家のお話を聞いてみませんか？」というようにすすめていかれるのもひとつの方法かもしれません。

子どもの問題行動が出てくると、つい犯人さがしや原因さがしを、あるいは誰かのせいにしてしまいがちなところがあります。何よりも一番困っているのは、指示が分からず、あるいは一度にたくさんのことを言われて立ちどまっている子どもだと言うことを私たちは忘れないようにしたいものです。大丈夫です。先生の「心配なことが多い毎日」とい

うお気持ちが必ず親に届く時がきます。焦らないで、少しずつ連絡の方法を工夫してみてください。伝える時は先生の心配しているお気持ちとともに、できるだけ具体的に事実だけをね!

御嵩町教育委員会 教育相談コーディネーター 西山 文子

Q:教育相談態勢を整えるためのコーディネーターの役割について教えてください。

A: 教育相談を円滑に校内ですすめるにあたっては、「組織」「態勢」「意識」「連携」の4つのキーワードを大切にしたいと考えています。コーディネーターを中心に全校態勢で指導・援助ができるためには、教育相談年間計画をもとに、常に教育相談委員会を機能させておくことが大切です。教育相談委員会は、何か問題が起きたときだけに機能するものではなく、予防的・開発的教育相談の視点から、個を大切にしたい学級集団づくりを進めたり、心の健康調査等を全校で行い、児童生徒の諸問題を早期に発見し対応したりできるような組織であることも大切です。また、個に合った、柔軟性と機動力をもったサポートチームを必要に応じて形成し、長期的な援助目標をたて、目標に向かって役割を分担して援助にあたるのが大切です。その達成のために、コーディネーターが中心となって、スモールステップ(短期の目標)を明確にした指導・援助を行うことが必要となってきます。

「態勢」の構築にあたっては、常日頃から、児童生徒一人一人がかけがえのない存在であることを意識して児童理解に努めること、一人で抱え込まないで組織的に取り組む態勢を整えること、教師自身のメンタルヘルスを大切にすることがあげられます。そのための研修を計画・実施することもコーディネーターの役割だと考えられます。研修の中で、教育相談態勢は全職員相互支援で成立することを絶えず「意識」し、教師自身が自己理解の上で、児童生徒の理解に努めていく「意識」の充実を図っていきたいと思います。日常的な行動連携(報告・連絡・相談・確認)を大切にすることで校内の「連携」を図ると共に、援助の必要な児童生徒のニーズに応じて関係機関との連携をすすめていくのもコーディネーターの大切な役割となります。日頃から、職員相互の共通理解・連携を深めるために、私自身は多くの職員と児童生徒のことだけでなく、多くのことを話題に話し合うようにしています。

岐阜市立加納西小学校 養護教諭 吉村 佳子

日本学校教育相談学会 第21回総会・研究大会参加報告

開催日：平成21年8月1日（土）～3日（月）

於：（沖縄県那覇市・宜野湾市）

第21回研究大会が8月1日（土）～3日（月）に開催されました。今回は主として、全国支部代表者会を中心として報告します。

1. 全国支部活動推進協議会

(1) 支部活動発表と意見交流

- ①「会員増への活動と支部研修会」(宮城県支部)
- ②「学校カウンセラー活用の活動」(新潟県支部)
- ③「ブロック研修会の活動」(九州・沖縄代表者)

(2) 話題になったこと

- ①活動内容の工夫～現場のニーズに応じた研修会の充実・他団体との共催（教育カウンセラー協会等・予算確保）
- ②PR 活動～学校や教育委員会へのアピールにより活動の理解を深めること。会員外の参加・案内状の配布方法・後援がポイント
- ③教育委員会との関係作り～カウンセラー活用へのアピールの働きかけが重要
- ④研修会の内容～学会委員会の研修体系の考え
・初級：ミニマム・エッセンシャルズ→支部研修会で行う。
・中級：現場に必要な内容・多様な技法についての知識と活用・マネジメントの基本→支部・中央の両方で行う。
・上級：指導的な立場に立つための質の高い知識と技能→中央研修会で。

(3) 感想等

- ①初めて開催された会であるが、各県の活動の様子を知ることができた。



- ②岐阜県支部の活動は研修回数・内容のレベルともによくやっている方だと思えた。しかし、さらに活動の活性化のための工夫が必要。

2. 全国支部代表者会議

(1) 内容

- ①平成20年度 学会活動報告及び決算報告
*会員数 2953名（37支部）
*会員減傾向（平成17年度 3218名）

*各専門・特別委員会の活動

*支部活動推進協議会 スクールカウンセリング推進協議会（仮称）の参加

②学会本部役員の変更（平成21～22）

*会長：中野武房（北海道） *事務局長：嶋崎政男（東京） 以下略

③平成21年度 学会活動計画及び予算

*例年の活動に加え、研修テキストの作成・学会20年誌の発行

④会則改正案

*倫理規定の新設→基本的には認められたが、文言での検討が必要となり来年度再提案。

(2) 特記事項

①スクールカウンセリング推進協議会（仮称）への参加の報告

→他学会と共同でスクールカウンセラーの任用に関して文部科学省への積極的働きかけ。
→文部科学省は、臨床心理士枠の撤廃の方向…各学会認定のカウンセラー・社会福祉士等、学校の要請に応じて

②今後の全国大会の予定

*平成22年度：神奈川大会（8/3～5・鎌倉市にて開催）

*平成23年度：宮城（仙台）

*平成24年度：静岡

3. 記念講演

「広汎性発達障害のある子どもたちへのかかわり」

東京大学大学院医学系研究科・森 俊夫

- ①「発達障害」は、発達しない障害ではなく、発達していくもの。しかし、発達させるには、それなりの（特別な）関わり方が、必要である。
- ②対応 ア：視覚的サインの利用 イ：空間・時間の構造化 ウ：RDI→中核症状の修復・発達を行うプログラム
- ③RDI (Relationship Development Intervention) の紹介・・・対人関係発達のための療育プログラム
- ⑤PDDへの支援には3つの視点（補償的援助・治療的療育・随伴症状への対応）からのバランスが必要（文責 小森芳順）

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第3号

2009年（平成21年）10月3日発行

発行：日本学校教育相談学会岐阜県支部

編集：日本学校教育相談学会岐阜県支部広報委員会

ホームページ <http://www1.ocn.ne.jp/~sodangif/>

E-mail : sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp